

インフォメーションディスプレイ Vol.38

九州産業大学
総合情報基盤センター
事務部長

岡田 清之 様

九州産業大学 様

『産学一如』の建学の理想を掲げながら、産業界の期待に応えるべく「実践力」「熱意」「豊かな人間性」を持った人材の育成に努める九州産業大学様。8学部20学科／大学院7研究科を備えた西日本屈指の総合私立大学として、これまで10万人を超える卒業生を社会に送り出されています。



所在地：福岡県福岡市東区

学内のインフォメーションをリアルタイムに発信。 45V型の液晶が、学内ネットワークにおける 『情報の窓』として活躍しています。

45V型
16台導入

九州産業大学様では平成15年から5カ年計画で、学内における情報システムの見直しが進められました。すでに、KIND(カインド)と呼ばれている学内LANの高速化(基幹LAN:10ギガビット)や、サーバーとPC約730台のリプレース等々が完了。そして2008年度後期からは、事業の総仕上げとして学生教育支援・事務情報システムが動き始めました。これら一連の事業を推進・展開されているのが、学内の総合情報基盤センターです。学生教育支援・事務情報システムでは、ITを活用した三つのサービスに注目が集まっています。一つ目は、PCや携帯電話を使って学内情報の取得やweb履修が行える『K's Life』(提供元:株式会社NTTデータ九州様)。二つ目は、IC学生証をサービス端末にかざすことで学内情報にアクセスできる『i-gate(アイゲート)』。三つ目は、さまざまなキャンパス情報をリアルタイムで発信する『情報掲示板』です。

この三つ目の『情報掲示板』として導入されているのが、45V型のインフォメーションディスプレイ。学部棟に12台、食堂に2台、図書館に1台、そして大学寮に1台の計16台が設置され、教務や学部からの各種案内が発信されています。



経済学部・商学部・経営学部が入る1号館の2階に導入された、インフォメーションディスプレイ。2台並んだ45V型の、向かって左側には休講案内が、右側には各部からの案内が表示されている。

導入時の評価ポイント

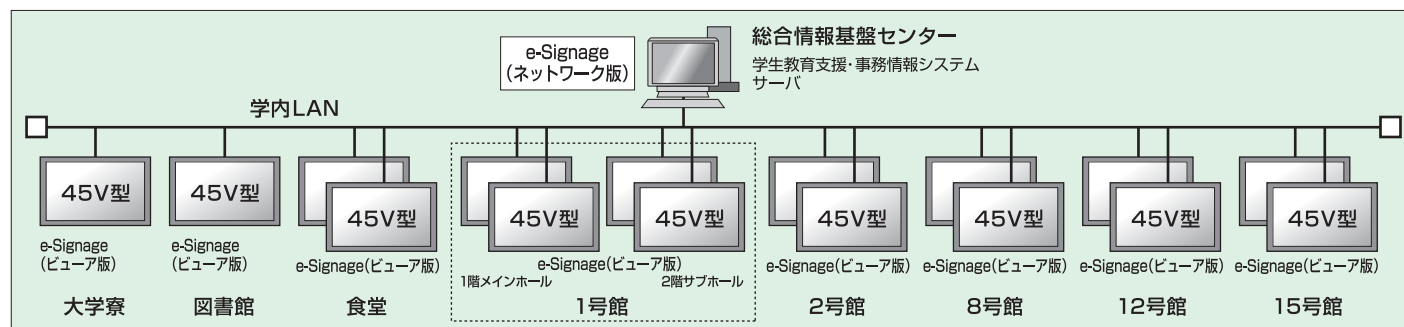
■ きめ細かな情報発信を実現する
■ 高精細フルスペックハイビジョンパネル

■ 長時間の連続使用にも耐えられる
■ プロユースに対応した耐久性・信頼性

■ 外光などが差し込む明るい環境でも見やすい
■ ASV低反射ブラックTFT液晶

■ レイアウトフリーで操作も簡単な
■ コンテンツ配信/表示システム『e-Signage』(イーサインエージ)

■ システム概略図



導入の経緯

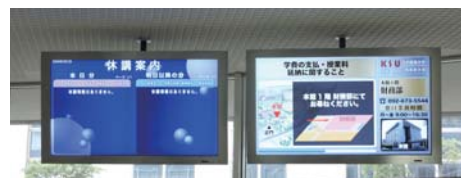
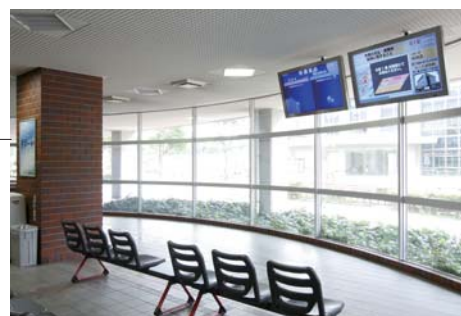
液晶技術をリードし続ける
信頼性と先進性を評価。

九州産業大学様では以前、1号館に設置していたロール式の表示板を使って休講案内を発信していました。これに対して学生たちから、「遠く離れた場所からも休講情報を入手できるようにしてほしい」との声があがります。そこで、携帯電話でも確認できるシステムを導入。利便性は高まりました。

「ところが学内アンケートによると、学生さんたちの携帯電話所有率は約96%。残りの4%の学生さんに、どうやって休講情報を発信するのか。そう考え始めたことが、ディスプレイを

導入するきっかけです」と、総合情報基盤センターの岡田事務部長はおっしゃいます。導入にあたっては、数社・数種のディスプレイを調査し比較検討。

「表示のほとんどが長時間の静止画なので、画面の焼き付きが一番の心配点でした。すでにディスプレイを導入されている近隣の他大学のアドバイスを頂戴しながら、最終的には静止画にも強い液晶タイプに決定。そのなかで、液晶の世界を変えるような技術力と先進性を持ったシャープさんの製品に、信頼性を感じたのです。」



工学部が入る8号館の1階に導入された、インフォメーションディスプレイ。ガラス張りの明るい空間でも、表示が際立つ。

導入後の感想

新しい情報を、つねに素早く・見やすく発信。

総合情報基盤センターでは、学内の各所に貼られている掲示物をデジタル化する意向もお持ちでした。

「情報を出力し、掲示場所まで貼りに行く。古くなった掲示物を剥がしに行き、処分する。その労力と時間は、積み重なると相当なものです。さらに、情報とは“生き物”。新鮮さを求めるうえでも、リアルタイムに訂正できるシステムが必要でした」。

各学部棟に、2台並んで導入されたインフォメーションディスプレイ。1台は休講案内を、そしてもう1台は大学や学部からの各種案内を表示する役割を担います。

「解像度も非常に高いですし、周りの明るさに影響されることが少なく、とても色鮮やかに表示できています。導入前の評価通りです。また、コンテンツを制作するソフトも使いやすく、非常に満足しています」。自由度の高い『e-Signage(イーサインエージ)』の操作性が、ここでも活かしています。



現在は、全コンテンツの制作を総合情報基盤センターが担当。今後は、コンテンツは各学部で制作し、総合情報基盤センターは『e-Signage(イーサインエージ)』で、表示レイアウト・スケジュール作成と配信管理のみ行う予定。

今後の展開予定

ディスプレイを活用した学びの場、安らぎの場。

各部に設置されているプロジェクターを、表示力に優れたディスプレイに。それぞれの教室のネームプレートも、情報力を持ったディスプレイに。さらに岡田事務部長は、ディスプレイによる安らぎの構想をお持ちです。

「私個人の考えではありますが、例えばディス

プレイを使って部屋一面に豊かな自然環境を映します。そこには、川のせせらぎや小鳥のさえずりが聞こえます。学内に、そんなリラクゼーションルームなどを設けることも必要ではないでしょうか。大学は勉学に励む場所ではあるのですが、学びだけを押し

付ける場所であってはいけなと考えているんです」。

九州産業大学の新たな魅力づくりと、そこに集う学生や教職員にこれまで以上の良い環境とサービスを提供するために、岡田事務部長の構想はますます広がります。

九州産業大学様の学生教育支援・事務情報システムには、株式会社NTTデータ九州様の「Live Campus」が採用されています。 <http://www.livesolutions.info/livecampus/>

●お問い合わせは シャープ株式会社

情報システム事業本部 ビジネスソリューション機器事業部
電話：(03)3260-8217 / (0743)55-6373

2008年9月発行